

戦略教材開発物語

【マル秘メルマガ】より

14 通目



◆ 6. なれない仕事で拘禁ノイローゼになる

富士登山から戻ったあとの9月、10月、11月の3ヶ月間は引き続き30回近くの講演をしていきました。

次の年の1989年1月2日には5時過ぎの1番電車に乗って事務所に行き時間をかけて今後の計画を立てました。

それから数日した後、再び講演の仕事です。本当は1月から休業したかったのですが、2月と3月は商工会議所や商工会の講演依頼がとても多くて、月に30回以上引き受けていた関係上、これを消化するのに一所懸命に取り組みました。次の月の4月1日からは完全な休業状態にして、原稿書きを始めました。

ところが1989年はバブル経済の最も過熱しているときでしたから、月曜日には講演の依頼が何件も入ってきて多いときは1日に4件も6件も問い合わせが入ってくるのです。

しかしそれを引き受けるわけにはいきません。

当時は1回当たりの講演料を15万円～20万円もらっていましたが、4件断ると60万円以上損したことになり、6件断ると90万円以上を損したことになります。

「ああーもったいない。今日は60万円儲けそこなった。ああ惜しいなー、今日は90万円損した」と、欲深いことをブツブツ言いながら原稿書きをしていました。

こうして3ヶ月ぐらい原稿書きをしていたときに、私の体に異変が

起き始めました。その異変とは、これまでに1ヶ月に25回～30回の講演をしていて全国を走り回っていたのに、マンションの一室で朝から夕方迄、毎日毎日原稿を書いていたので、体の調子と精神の調子の2つがおかしくなってきたのです。

まず食事が進まなくなり、次は夜眠れなくなりました。

犯罪を犯した人が独房に入れられると、たいがい拘禁ノイローゼにかかるそうですが私もそうなりかけたようです。

このままでは原稿書きが続けられなくなります。そこでやむを得ず条件付きで講演を再開することにしました。

福岡県を中心に、佐賀県、熊本県それに山口県と、近い所は講演を引き受けることにしました。それも夕方から始まるものを受けるようにしました。このエリアですと講演会場に1時間～1時間30分で行けますから、移動時間で疲れることが少なくなります。

こうして1ヶ月に6回～8回の講演をしながら、原稿を書き続けました。

あるテーマの1章や2章というように、まとまった原稿が書き終えたら、今度は初めから全体を読み直します。問題点が見つかったらもう一度考え直して書き直したり、説明不足のところがあつたら文章を付け加えます。こうすると原稿用紙は字が混み合い、ひどく汚くなります。

私はもともと原稿書きが下手なので、つけ加える文章がとても多くなります。書いた文章をチェックするときは、スーと読めないと良い知恵が出ません。同じく、書いた文章がスーと読めないと独創性がある文章が書けないのです。

そこで字が上手な事務の高田さんにその原稿を初めからきちんと書き直してもらうことにしました。清書してもらったきれいな原稿を読み直すと全体がよく解かりますから、今迄気付かなかった問題点や矛盾点がいくつも出てきます。そこで再びその部分を書き直します。

こうしていると、また原稿用紙が足りなくなった文章でごちゃごちゃになりますから、もう一度初めから高田さんに清書してもらいました。

こうした作業を4～5回したあとで、ようやくワープロができる関さんにワープロ入力をしてもらい、プリントしてもらおうととても読みやすくなります。

読みやすくなると、これまで気付かなかった問題点や矛盾点にまたまた気付くので、もう一度書き直します。

こうして20回～30回書き直していると書こうとしているテーマについて深く掘り下げて何回も何回も考えるので、その部分については内容が特別充実していきます。

さらに書こうとしているテーマで、特別に重要度が高いところは、原稿を書いている以外の時にも考えます。例えば風呂に入っているときや、布団に入ったときでも考えます。

こうしていると、あるときそれが夢に出てくることがあります。夢に出てきたものは独創性につながるがあります。

独創性がある自分独自の考え方が出ると、それをもとにしてもう一度原稿を書き直していきます。

こうしていると自分でも納得のいく良い原稿が出来上がります。

ではこれで完成かという、そう上手くはいきません。

私は文章がひどく下手なので、私が書いた原稿ではまだ商品にならないのです。そこでこのあと文章を上手に直す仕事を本業にしているライターに仕上げを頼みました。ライターは小さい頃から多くの本を読み、自分自身が原稿を書くのはもちろんのこと、他人が書いた原稿を直すことがとても上手なので、カドがとれて読みやすい原稿が戻ってきます。

このとき、文章の2割ぐらいがカットされることは必ず起きます。

ところが当時はバブル経済のピークだったので、東京でリライトができる人は忙しくて、なかなか引き受けてもらえません。無理を言って引き受けてもらっても、2ヶ月も3ヶ月も待たされます。

しかも料金は1冊で70万円～80万円かかりましたから、5冊を頼むと350万円～400万円もいります。

私にとっては大金です。

それでも赤ペンを入れたりリライトしてもらった原稿を読み直すと、文章が下手な人でも、どこを、どのように直すのか、そのやり方というか「コツ」が解かるので、私にはとても役立ちました。

東京の上手な人に頼むと、お金と時間がかかり過ぎるので、福岡でリライトできる人を探すことにしました。印刷会社や地元の雑誌社の紹介で何人か見つかったので、さっそく仕事を頼みました。

ところがまともな仕事をしてくれたのは、5人のうち1人だけで、残りの4人はほとんど役に立ちませんでした。

文章の直しを頼んだものの、かえって内容が悪くなることもあったりして結局200万円ぐらいは損してしまいました。

これで解かったことは、今迄経験したことがない仕事を頼むときは特別上手な人を探して、その人に頼んだほうが結局早く片付く、ということでした。

(続く)

Lanchester

ランチェスター経営(株)



〒810-0012 福岡市中央区白金1-1-8 チュリス薬院301

TEL 092-535-3311 FAX 092-535-3200

メールアドレス customer@lanchest.co.jp HP <https://www.lanchest.com>